

第2回 2009年8月出発 参加者 ●長谷川 佳さん、ホスト: 東亜大学校

1. 応募したきっかけ

以前から韓国の文化に興味があったので、Summer Instituteの募集を見てすぐに私が所属する研究室の指導教員に相談しました。

私が専門とする建築環境の研究を行っているということでホスト研究室の教授を紹介され、連絡したところ是非受け入れたいというお返事をいただきました。

そこで、韓国の滞在は文化と研究の両面で学ぶことができ、素晴らしい経験になるだろうと思い、応募を決めました。

2. 事前準備

まず、ホスト研究室の学生と連絡をとり、ホスト先の研究テーマや研究施設・設備等(PC、ソフトなど)について確認しました。また、研究室のHPをチェックし、最近投稿された論文などをチェックしました。

語学に関しては、選考合格の知らせを頂いた時点から韓国語の勉強を始め、ハングル文字の読みと簡単な挨拶程度は覚えておきました。また実際にコミュニケーションを取る際にはほとんど英語になるだろうと思い、英会話も少し勉強しておきました。

3. 現地研修

ソウルでの文化研修では、韓国の伝統公演の観覧、板門店の観光という、普通の旅行ではなかなかできない貴重な体験をすることができました。

私の場合はソウルから直接ホスト研究室のある釜山に移動せず、まず智異山というところで行われていたセミナー合宿に合流しました。いきなり他大学との合同セミナーということで右も左も分からない状態でしたが、この合宿に参加したことでその後ずんなりと韓国の学生達と馴染む事ができました。

ホスト研究室では建築環境シミュレーションソフト『Trnsys』の活用法について勉強しました。日本での研究テーマとはやや対象が異なることもあり、勉強しなければならないことも多くありま

したが、結果的にその習得は今後の研究に向けて視野を広げるという意味でも非常に有効であったと思います。

4. この研修を通じて得たもの

一つ目に、文化研修や釜山での滞在を通して韓国の文化を学んだ事があります。時に戸惑うこともありましたが、そこはお隣通し、基本的には共感できる部分の方が多く、この研修を通してより韓国を身近に感じる事ができるようになりました。

二つ目に、研究活動を通しては修士論文に向けて有効な手法を学ぶ事ができました。また、逆に私の日本での研究内容をプレゼンテーションする機会を与えていただくなど同じ分野を勉強する者同士、知識や手法の共有をすることができました。

三つ目に、この研修を通じて得た最も大きなものは、ホスト研究室の学生をはじめ、多くの人たちと今後もずっと付き合いを続けていきたい、と思えるような関係を築くことができたことです。韓国で出会った人々は本当にフレンドリーで親切な人が多く、約7週間の滞在を気持ちよく過ごす事ができました。

5. 参加する人へのアドバイス

私は事前に研究室の学生と連絡をとっていたのですが、研究テーマの事前確認についてはやや不十分だったため、現地で戸惑うことが少しありました。従って、ホスト先での研究についてはなるべく詳細まで確認しておくことをおすすめします。

韓国語は分からなくても何とかできますが、簡単な挨拶程度でも話せると向こうの学生も親近感を持ってくれると思うので、時間があれば勉強されたほうが良いと思います。

私は現地に着くまで韓国の音楽やドラマなどをほとんど知らなかったのですが、そういう最近の流行についても少し知っておくと話題が広がると思うので、興味のある方はチェックしてみてください。

不安も大きいと思いますが、行ってしまえば何とかできます。前向きに楽しんでください。

